

第135回 ひばりの新境地を拓いた 作曲家のアイドル門下生

歌謡曲の範疇からは外れますが、レコード大賞受賞曲よりも認知度の高いCMソングに『ヤン坊・マー坊の唄』があります。ヤン坊・マー坊の唄は「僕の名前はヤン坊、僕の名前はマー坊、二人合わせてヤンマーだ」の歌声は、どなたも一度は耳にしたことがあるでしょう。

ちょうどレコード大賞が制定された昭和34年からブラウン管に登場したようですが、小学校低学年だった私は、NHKテレビ『チロリン村とくるみの木』の主題歌と同じ感覚で弟と口ずさんでいました。

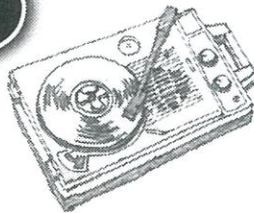
『ヤン坊』の作詞者・能勢英男の本業はヤンマーの宣伝部長、作曲家の米山正夫は、昭和22年にNHKラジオ歌謡『山小舎の灯』（作詞も）で頭角を現わすと、『リングゴ追分』（詞・小沢不二夫）など、美空ひばりの10代後半からのヒット曲を量産、『津軽のふるさと』『ロカビリー剣法』『花笠道中』などは自ら作詞、昭和40年代に入ってから西郷輝彦『恋人な

らば』『恋のGT』など、作詞もこなせるヒットメーカーとして知られた存在です。

名曲カルテ

昭和歌謡と いままで

堀井六郎
絵 松本浦



その米山の門下生で、昭和48年3月にアイドル歌手としてデビューした、山岡英二という若者がいました。デビュー曲『恋人は君ひとり』は、この時期に新発売されたヤンマー製モーターボートのCMソングに使用され、CMには山岡自身も出演しています。

作詞作曲は『ヤン坊』と同じコンビで、「山岡」という芸名は、おそらくヤンマーの創業者、山岡孫吉に因んだもので、「英二」も作詞者から一文字拝借したものでしょう。サッカードリークの前身、日本サッカーリーグで、ヤンマーが釜本邦茂とネルソン吉村を擁して全盛時代を迎えようとしていた時期です。

ヤンマーという大企業をバックに、サンバ風の明るい青春歌謡を歌う山岡の前途は洋々と開かれているように思われましたが、不発に終わり、同年10月に発売された師匠・米山正夫作詞作曲の『君は無敵の三冠王』もヒットせず、山岡の名前は自然消滅していきます（この年は、王貞治が最

初に三冠王を獲得し、巨人がV9を達成する無敵の時代でした）。

それから4年後の昭和52年、私が仕事で乗っていた営業車のカーラジオから流れてきたのは、ギターをかき鳴らしながら東北弁の地声で和製フォークのように歌う『俺はぜったい！プレスリー』なる曲で、語るような歌唱とコミカルな歌詞と親しみやすいメロディーがヒットにつながり、映画化もされます。

人生の悲哀を多弁な歌詞に乗せて歌う「シンガーソングライター、吉幾三の世界」がここから始まります。歌詞カードには記載されていませんが、この曲は「よし、んだば、そろそろいくぞー」と芸名をしゃれ込んだ宣言を発してから始まります。後年、知らぬ間に所属レコード会社に改名させられた、と自嘲気味に語る、ヤンマー御用達CM歌手・山岡英二改め、吉幾三の再出発でした。今や平成演歌の大御所となった吉幾三ですが、彼が昭和時代に残した自作自演曲には、忘れがたい台詞入り私小説風作品がいくつもあり

ます。

